

# ごみをへらそう

対象：小学校4年生

教科：総合

関連する単元：社会「健康的な暮らしをささえる」「ごみの処理や活用」

時間数：2時間

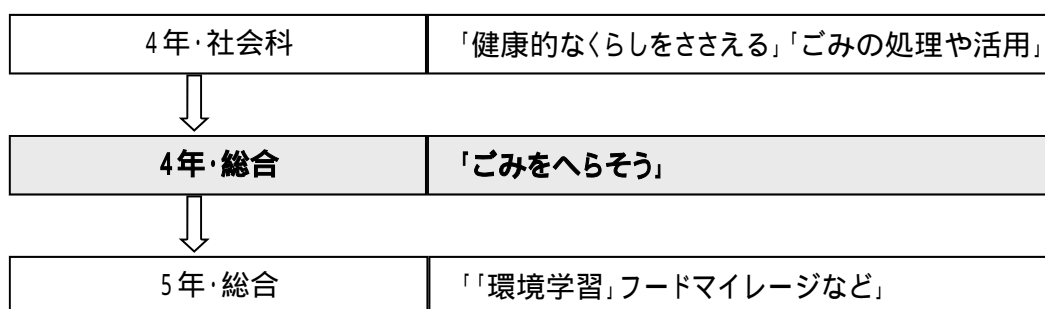
## 【単元の概要】

### 学習の背景

子どもたちは、ごみの量や種類を調べ、実際に清掃工場やリサイクルセンターに見学に行き、ごみの処理や活用について学習をし、ごみを減らす必要があることを学んでいる。そして、実践できることを見つけ行動に移し活動している。しかし、物に恵まれている環境におかれている子どもたちの物の扱い方などは、便利さの追求の生活の中で、物を大切にしようとする意識が薄れてきているように感じる。

### 単元の位置づけ

ごみと「処理費」を結びつけながら学習を進めていくことで、環境問題だけでなく、経済的な視野も持たせながら、ごみを減らす必要性に気づくことができると考えられる。



### 単元のねらい

今回、NPO「沖縄リサイクル運動市民の会」作成のプログラム「買い物ゲーム」を総合的な学習の中で実施することで、自分たちの生活のどこでごみが発生し、どれだけごみが出るか気づくことができる。そして、どのような工夫をすればごみを減らすことができるかをこれまで学習したことから再確認し、実践力を高めることができると思う。

## 概 要

子どもたちは、一度目の買い物から、買い物の仕方や工夫によってごみを減らすことができることに気づくだろう。再度買い物をすること、つまり行動を見直し変えることで、ごみを減らせることを確認することができる。実践できたという喜びが自信となり、次の行動につながっていけるだろう。1回目の買い物の失敗や気づきが、2回目の行動の中で工夫や知恵となり、自分たちの意識を変えることが行動を変え、ごみを減らし、環境や社会を変えていくことにつながるということを学ぶことができる。

## 指導計画（全2時間扱い）

3 学期 導 入：20分間 「よい買い物できるかな」

- ・ 買い物ゲームのルールを理解する。
- ・ 買い物ゲームの目的を理解する。

3 学期 展 開：60分間 「買い物ゲームをしよう」

- ・ 1回目の買い物ゲームでごみの分別と処理費について学ぶ。
- ・ 2回目の買い物ゲームで環境を考え、ごみを減らせるように配慮する。

3 学期 まとめ：10分間 「ごみのこれからについて」

- ・ 買い物ゲームで学習したことを実践に生かそうとする意欲を持つ。
- ・ 那覇市のごみの現状について学ぶ

### 【環境意識を育成し実践行動へとむすびつけるために工夫した点】

カレーの材料を買うという設定の「買い物」をする中で、ごみの発生や量に気づかせる。

買い物によって生じたごみの量を「処理費」と結びつけ、おつりからさらに処理費分を引いて、環境によい買い物をしているか気づかせる。

教師は「ファシリテーター」という役割で、子どもの可能性を引き出していくことが大切である。NPOの方は、お店の販売員として関わる。



結果発表をする。  
ほかのグループのおつりはどれくらいなのか、どのような買い方をしたのかを比べてみる。

食べ物とそれ以外に分け、出たごみの分別をする。  
食べ物とそれ以外に分け、さらに出たごみの分別を行い、ごみについている点数を見つけさせる。

処理費について説明のあと、点数を合計して、おつりから処理費を引く。  
処理費とは、ごみをかたづけるために必要なお金であること。ごみの点数を合計して、ごみを処理するために必要な処理費をおつりから引き、どのくらい残るかを計算させる。

自分たちの買い物から出たごみの量とおつりの結果を発表し、他のグループと比較する。  
本当によい買い物とは何かを考え、環境を考えた買い物をする必要性に気づかせる。おつりが多く残ったグループは何がよかったのか発表を聞きながら見つけさせる。

どうすればごみを減らすことができるかについて考え、発表させる。  
買い物に限定せずに行えることを考えさせ、発表する。

2度目の買い物「買い直しゲーム」  
買い物の目的を確認して、2回目の買い物ゲームを行う。作戦タイムのあと買い直し、結果を発表する。

ねらい：自分たちの選んだ物や、選び方によっておつりが変わることを知る。自分たちの買い物がいよいい物だったのかを考えさせる。

ねらい：食べ物以外の物がごみであることに気づかせる。買い物によってたくさんのごみが出ることに気づかせる。きちんと細かい物まで分別させ、どんな種類があったか調べ、ごみによって点数が違うことに気づかせる。

ねらい：ごみと処理費の関係について理解させる。処理するためにはたくさんのお金がかかることに気づかせる。点数の計算で、なぜおつりから引くのか理解させる。

ねらい：おつりを多く残すために、ごみのことまで考えていなかったことに気づかせる。環境にやさしい買い物は、ごみを多く出さない買い物であること。選ぶ品物によってごみの量が違うことに気づかせる。  
・原因を考えようとしなないことがないように気をつける。

ねらい：包装の少ないもの、マイバッグの持参、物を大切にすることなどに気づかせる。他の人の考えを聞いたり、意見交換する中で、生活の中で活かせる知恵や工夫を知り、考えを深めさせる。

ねらい：話し合いや発表の中で気づいた工夫を取り入れて、ごみをできるだけ出さない環境に配慮した買い物ができることに気づかせる。よい買い物のできた喜びを感じてもらう。

ふりかえりと那覇市の現状、ごみ処理施設について（15分間）

〔活動目標〕 今日学習したことを実際に今度やってみよう。家の人にも話そう。

まとめ  
(15分間)

活動内容

指導、留意点

今日の学習のふりかえり、まとめ  
今日学習したことを、今度からやってみようと思ったかを児童に聞いてみる。家の人にも話してみることができるか。子どもたちの暮らす那覇市の現状やごみの処理施設について説明する。

ねらい：自分たちの生活に取り入れていこうとする意欲を持つことができるようにする。

総合 P.16

学習の効果・児童の変化について

買い物をするとき意識するようになったこと（児童の発表から）

- ・ごみを処理するのにたくさんのお金がかかることがわかった。
- ・いつもマイバッグを持って買い物に行っていたのでよかった。
- ・安いだけでなく、ごみが少ないかどうかを見て、買い物をするようにしたい。
- ・みんなといっしょに考えたら、いろいろ環境にいいことができそうだ。
- ・また「買い物ゲーム」をやって、今度はおつりをもっと残したい。
- ・お母さんに話したら、今度はいっしょに買い物にいつてね、と言われてうれしかった。
- ・買い物でも、エコ活動に参加できるんだと気づいた。
- ・表示を意識していこうと思った（ウラを見るよう心がけるようにしようと思った）。
- ・沖縄の現状（ごみをすてる場所が海になったこと）がわかった。

